

令和3年度 年間授業計画

都立南平高等学校

学年 必・選	2年必修	教科	国語	科目	古典B	単位 数	3
教科書	東京書籍 精選古典B			使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・新訂総合国語便覧（第一学習社） ・必携古典文法（明治書院） ・重要古文単語315（桐原書店） ・漢文必携（桐原書店） 		
授業 担当者名							

		指導内容	指導目標	予定 時数
一 学 期	中間 考 査	用言・助動詞・敬語の復習 説話 『宇治拾遺物語』（「小野篁、広才のこと」） 『古今著聞集』（「能は歌詠み」） 物語 『伊勢物語』	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に学習した、用言・助動詞・敬語を中心とした文法事項を復習し、理解を深めさせる。 ・説話の書かれた時代背景や人物への理解を深めつつ、エピソードの面白みを把握させる。 ・歌物語の読解を通じて、平安時代の貴族的な価値観、歌の占める役割を理解させ、修辞の技術を学ぶせる。 	15
	期 末 考 査	小話『十八史略』（「不死之薬」「完璧而帰」） 「漱石枕流」 随筆1 『枕草子』（「九月ばかり」「すさまじきもの」） 「雪のいと高く降りたるを」	<ul style="list-style-type: none"> ・書き下し文、使役・比較・仮定・願望等の句法を習熟させる。 ・ものづくしの章段を通じて古語のニュアンスを把握させる。・作者の宮中生活における活躍と主人である中宮定子との心の交流を読みとらせる。 	22
二 学 期	中間 考 査	軍記物語 『平家物語』（「忠度の都落ち」） 『奥の細道』（「平泉」） 『史記』1 「鴻門之会」	<ul style="list-style-type: none"> ・軍記物語の読解を通じて、平安時代の貴族的な価値観から抜けた中世という時代を体感させ、そのダイナミックな文体を味わわせる。 ・修学旅行に訪れる場所の事前学習により紀行文を味わい、俳句独特の表現を学ばせる。 ・各登場人物について、その働きと人物の特徴が個性豊かに描かれていることを読み取らせる。 	23
	期 末 考 査	物語1 『大鏡』（「雲林院の菩提講」「道真の左遷」） 『玉勝間』（「兼好法師が詞のあげつらひ」） 『史記』1 「四面楚歌」「項王自刎」	<ul style="list-style-type: none"> ・「雲林院の菩提講」の読解を通じて、『大鏡』の語りの特徴について理解させる。 ・道真が左遷された事情について、どのように語られているか、和歌や漢詩に込められた心情にも着目しつつ把握させる。 ・三大随筆の一つ『徒然草』がどのように江戸時代の国学者に批判されていたのか、古文の評論を読ませる。 ・あらすじを把握しつつ、項羽がどのような考えをもっていたかを読み取らせる。 	21
三 学 期	学 年 末 考 査	物語2 『源氏物語』（「光源氏の誕生」「若紫」） 思想1 『孟子』（性之善也、猶水之就下） 『荀子』（人之性悪） 『老子』（無用之用） 文1『漁父辞』『春夜宴桃李園序』 ・『万葉和歌』『王朝和歌』『近体詩』など	<ul style="list-style-type: none"> ・物語の始発に対する理解を深めるとともに、光源氏の誕生が、両親の愛情物語にどのように関わっているのかを読み取らせる。・源氏最愛の女性の鮮やかな登場シーンから、物語の核となる二人の出会いを読み味わわせる。 ・孟子の「性善説」、荀子の「性悪説」を比較し、老子の「無為自然」を学ぶことで、人間に対する理解を深めさせる。 ・屈原と漁父の主張からそれぞれの生き方を理解する。・盛唐の大詩人の人生観を知る。反語や仮定の句法を学ばせる。 	24
	計			105

評価の 観点・方法	関心意欲をもって取り組んだか、語句の正確な理解力・文章の的確な読解力・豊かな鑑賞力が身についたかを、定期考査を中心に、提出物・授業態度・感想文・小テスト等で総合的に評価する。
--------------	---